

- 2. 政策形成対話の促進: 長期的な温室効果ガス(GHG)大幅削減を事例として

Promotion of a policy-forming dialogue through Discussion on Long-term Substantial Reduction of GHG

 キーワード	地球温暖化政策、参加型手法、ステークホルダー会議
Key Word	Climate Change policy, Participatory Method, Stakeholder dialogue

1. 研究開発の目的

科学から発信された気候変動問題は今や国際政治の中心課題である。しかしながら、国際協調の目標と道筋に関する合意形成は難航を極めている。温室効果ガス(以下、GHG)の長期的な大幅削減を実現するためには、科学技術の役割とともに、科学に裏打ちされた政治決断が重要だが、一方、気候変動の影響を受け、またその取組主体でもある社会の構成員(ステークホルダー(以下、SH)、一般市民)の意思と行動が求められている。我が国においては、政治、科学、そして社会の構成員の間での責任ある議論、そしてその仕組みも存在していないのではないか。

こういった問題認識の下、本研究開発プロジェクト(研究代表者:柳下正治・上智大学大学院教授)では次のような目的を掲げている。

長期的な GHG 大幅削減問題をテーマに「低炭素社会づくり『対話』フォーラム」を開催し、科学者/専門家と SH 間、及び SH 間において本格的な対話を重ね、熟慮と相互理解を通じて社会的意思の形成の可能性を試みる。

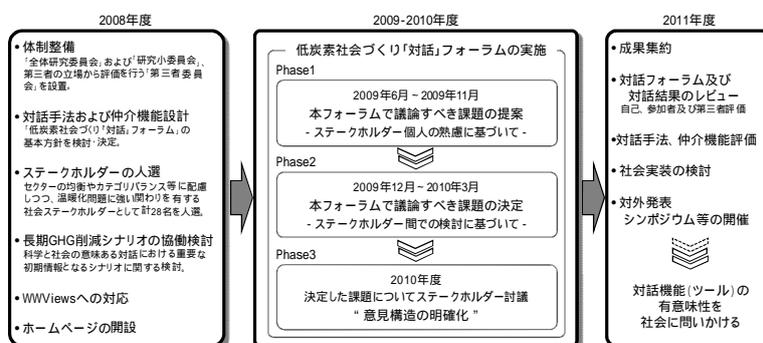
のフォーラム試行を通じて、長期的な GHG 大幅削減に関する社会的意思の形成に資する社会的ツール(場の機能、方法論)を開発し、これを社会に提案する。

2. 調査研究成果概要

(1) 研究開発の構造

研究の中核を成すものは、「低炭素社会づくり『対話』フォーラム」におけるステークホルダーダイアログである。フォーラムの概要は、次のとおりである。

- ・主催者: 低炭素社会づくり『対話』フォーラム実行委員会(研究開発プロジェクト研究者で構成)
- ・テーマ: 「対話」で探る低炭素社会
- ・ねらい: 低炭素社会の構築に向けて、今の時点から SH 間で徹底討議しておくべきテーマを SH 自らが探り、SH と科学者/専門家間、及び SH 間の対話を通じて、テーマに関する意見構造を明らかにすることを目的とする。「意見構造の明確化」とは、徹底討議を通じて意見の一致点・不一致点、そして意見のベクトルや相違の理由・背景までを含めて可視化し、共有化を図るもの、と定義している。



(研究開発実施スケジュール)

・参加者:SH28名(長期 GHG 大幅削減の担い手として強い関わりを有する主体。多様性を確保)

・フォーラムスケジュール:

フェーズ1...「本フォーラムで議論すべき課題の提案(個人の熟慮)」2009年6月～11月(全4回)

フェーズ2...「本フォーラムで議論すべき討議テーマの決定」2009年12月～2010年3月(全2回)

フェーズ3...「決定したテーマに関する討議(意見構造の明確化)」2010年度(全10回程度)

(2) 調査の内容

会議詳細設計及び方法論検討に必要な調査・研究の実施

本研究開発プロジェクトは多様な研究領域から構成しており、本研究所においては、次のような実施項目に関する研究を担当している。

・SHと科学者/専門家間、及びSH間の熟慮を促す会議詳細設計の検討

・会議設計に必要な調査・研究の実施(既存類似事例の分析、先行研究レビュー等)

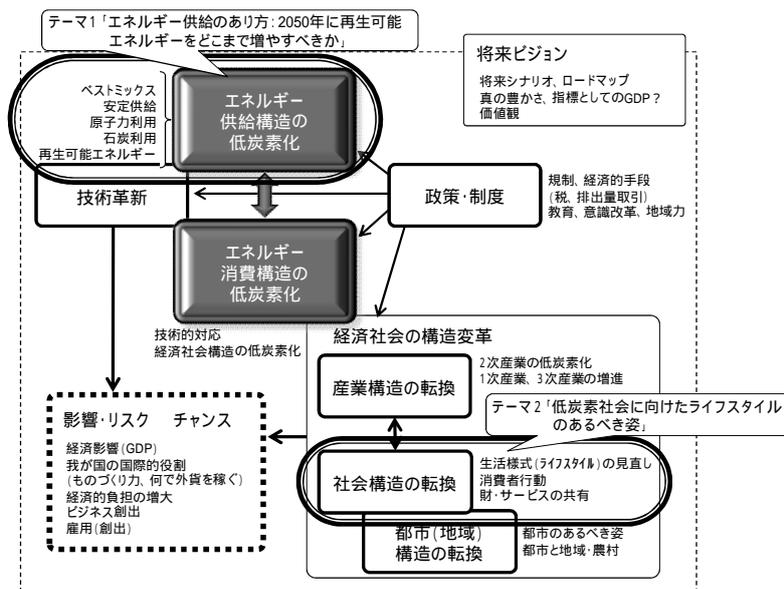
・会議設計の妥当性を検証するための評価基準等の検討

(3) 主な成果

SH間の対話、及び科学者とSHの対話を通じた個人の熟慮と、討議テーマの決定

対話フォーラムのフェーズ1では、本フォーラムにおいてSH間で徹底議論すべきと考える個々人の課題提案をまとめる「個人の熟慮」を行った。SH間の対話、及び低炭素社会シナリオ科学者とSH間の対話を重ね、28名のSHから60を超える課題が提案された。続くフェーズ2では、それらをもとに本フォーラムで議論すべき2つの討議テーマを選定する討議を実施し、「1. エネルギー供給のあり方: 2050年に再生可能エネルギーをどこまで増やすべきか」「2. 低炭素社会に向けたライフスタイルのあるべき姿」の2つのテーマが決定された。結果を下図に示す。

エネルギーの流れに着目すれば、最上流のエネルギー供給と最下流のエネルギー消費・生活の分野が取り上げられたことになる。つまりGHG大幅削減問題に対して、エネルギーフローの両端から討議することとなった。2010年度に行うフェーズ3では、この2つのテーマの下、「意見構造の明確化」を目標にSH間の徹底討議を行う。それぞれのテーマにおける意味ある議論とは何か、これまで政策形成プロセスにおいて素通りされてきた意見構造の明確化まで到達できるのかどうか、その方法論開発に向けて引き続き取り組んでいる。



(課題俯瞰図(フェーズ1で提示された全SHの課題提案)にみる2つのテーマ位置づけ)